

なし

発行年	1910
URL	http://hdl.handle.net/10114/615

好マ

第六章 時效

(理由) 既成法典ハ時效ヲ以テ證據ノ一種ト爲レ之ヲ證據編ノ終ニ規定セリ是レ蓋シ時效ヲ法律上ノ推定トシ法律上ノ推定ヲ一ノ證據トシタルニ因レルナリ反證ヲ許ササル法律上ノ推定ヲ證據ナリト云フコト既ニ不穩當ナリ且又時效ヲ法律上ノ推定ナリトスルノ說ニ至リテモ未ダ其正鵠ヲ得タルモノト謂フコトヲ得ス占有者ノ善意ナルト惡意ナルトニヨリテ取得時效ノ年數ヲ異ニスルノ一事ヲ見テモ時效ノ決シテ法律上ノ推定ニアラサルコトヲ知ルニ足ル之ヲ沿革ニ徵スルモ羅馬ノ「ウズカビオ」(usucapio)ハ法定ノ取得方法ニシテ「デオトレス」第二世ノ制定シタル二十年ノ時效ノ訴權ノ消滅方法ナリシコトハ疑ヲ容サル所ナルヲ以テ本案ハ之ニ倣ヒ既成法典ノ主義ヲ變シ時效ヲ以テ權利ノ取得及ヒ消滅ノ方法ト認メタリ

取得時效ハ主トシテ物權取得ノ方法ニシテ消滅時效ハ主トシテ人權消滅ノ方法ナルカ故ニ前者ハ之ヲ物權編ニ掲ケ後者ハ之ヲ債權編ニ掲グルヲ可トスルノ說アリ又舊民法草案案源民法等ノ如ク消滅時效ノミ民法ノ總則ニ掲ケ取得時效ハ之ヲ物權編ニ掲グルノ例アリ其他獨西歐邦中ニ於テモ取得時效ヲ物權編ニ掲グルノ例ニ乏シカラスト雖モ本案ニ於テハ取得時效ハ物權取得ノ方法タルト同時ニ又人權取得ノ方法トモ爲ルモノトシ消滅時效ハ人權其他各種ノ財產權ニ通過シテ消滅ノ方法ト爲ルモノトスルカ故ニ勢ヒ惡ク之ヲ總則ニ掲ケサルコトヲ得ス且時效ニ關スル規則ノ中ニハ取得時效ト消滅時效ニ共通スルモノ頗ル多クアリ隨テ之ヲ一所ニ規定スルヲ便ナリトスルカ故ニ總則中ニ本章

ヲ直キ以テ時効ニ關スル原則ヲ網羅セリ

證據編第四百十四條以下ニ規定セル所謂時効ナルモノハ其性質時効ニアラスト信スルヲ以テ古
有權ノ章ニ規定スヘキモノトシテ茲ニ之ヲ省ケリ

證據編ハ其末尾ニ附則ヲ置キ新法實施前ニ生シタル權利時効ニ關スル特別ノ規定ヲ設ケタリト雖
モ本案ニ於テハ此ノ如キ規定ハ凡テ之ヲ民法施行條例ニ譲ルコトセリ

第一節 總則

(理由) 前段既ニ論スルカ如ク時効ノ規則ニハ取得時効ヲ消滅時効ニ共通ナルモノ多キ故ニ之ヲ
一節ニ經括シテ總則トシテ次に二節ニ於テハ各種時効ニ特別ナル規則ヲ掲グルコトセリ

證據編第八十九條ニハ時効ノ定義ヲ掲グルト雖モ本案ニハ成ルベク不必要ニ定義ヲ掲ケサルコトト
セルニ因リ之ヲ省キタリ況ニ證據編ニ掲グル定義ノ如キハ既ニ第一章首ニ於テ論シタル本案ノ主義ト
合セサルモノナルカ故ニ右ノ條文ハ之ヲ削除セリ

同編第九十條ハ時効ヲ法律上ノ推定トセル結果ヲ掲ケタルモノニシテ本案ニハ全ク必要ナキモノナ
ルヲ以テ亦之ヲ削除セリ

同編第九十二條ハ或ル訴訟ハ行使ハ爲メ法律ニ定ムル期間時効ノ一般ノ規則ニ從フヘキモノト
シ既成法典ノ人事編財産編等ニ此種ノ期間頗ル多シ然レトモ其中ニハ或ハ之ヲ時効トシテ可ナルモノ
モアレトモ多クハ時効ノ規定ヲ適用シ難キモノナルヲ以テ既成法典ノ如キ經括ノ法ヲ設ケテ之

ヲ覆フコトナク時効ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニハ特ニ時効ナル文字ヲ用非其他の場合ニ於テ期限
(Limitation)ト稱シテ之ニ時効ノ中斷停止等ノ規定ヲ適用セサルヲ妥當ナリ是レ第九十二條ヲ
削除シタル所以ナリ

同編第九十三條ニハ何人モ時効ヲ援用スルコトヲ得又時効ノ對抗ヲ受クヘキコトヲ規定セリト雖モ
是レ固ヨリ言フヲ待マサル所ナルヲ以テ之ヲ削除セリ

同編第九十四條ニハ廢通物及讓渡スコトヲ得サルモノナルヲ以テ不廢通物ノ時効ニ羅コトヲ得サル
物ニアラサレハ財產權ノ目的タルコトヲ得サルモノナルヲ以テ不廢通物ノ時効ニ羅コトヲ得サル

ハ當然ノ事ナリ又讓渡スコトヲ得サル物ハ時効ニ羅コトヲ得ストノ一般ノ規定ヲ設ケルノ必要ナ
ク若シ或場合ニ於テ之ヲ必要アリトスレハ其場所ニ於テ特ニ規定ヲ可ナリ又第二項ニ於テ公有ノ

財產ハ凡テ時効ニ羅ラストスルノ規定ハ稍重キニ失スルノ嫌アルヲ以テ同條ハ全然之ヲ削除セリ
同編第九十五條ニハ權能ハ時効ニ羅ラスト云ヘル規定ヲ設ケルモ所謂權能ナルモノ亦權利ノ外ナラ

ズ原則トシテ之ヲ時効ニ羅フサルモノトスルハ不可ナリ唯或ル權利性質ヨリテ長ク之ヲ行使セ
サルモ時効ニ羅フサルモノアリト雖モ是レ其權利ニ就テ特ニ規定スヘキモノナリト信スルヲ以テ本

條ニ亦之ヲ削除セリ

同編第九十六條第二項及ヒ第四百十二條時効ヲ法律上ノ推定トセル結果ニシテ本案ノ主義ノ異ナ
ルカ故ニ之ヲ削除セリ

同編第九十七條ノ規定ハ言フヲ待タズト信スルヲ以テ之ヲ削除セリ

同編第九十八條ハ民事訴訟法ノ規定ノ當然ノ結果ニ過キサルカ故ニ之ヲ削除セリ

以上ノ如キ理由ニ因リ證據編ノ時効ノ性質及ヒ適用ニ關スル規定ハ大略之ヲ削除セリ

第四百十四條

(理由) 本條ノ規定ハ證據編第九十一條ト其主意ヲ同レウス既ニ章首ニ於テ述ベタルカ如ク本案ハ時効ヲ以テ取得又ハ消滅ノ直接ノ方法トセルカ故ニ特別ノ明文ナキ以上ハ其效力ハ決シテ既に二週ルモノニアラス然リト雖モ時効ハ公益上ノ必要ヨリ生スル規定ニシテ權利ノ長ク不確定ノ有様ニアリコトヲ防キ成ルヘク爭訟ノ少クランコトヲ欲スルモノナルニ若シ此時効ノ主義ヲ一貫シ其效力ハ單ニ取得又ハ消滅ノ時以後ニアルモノトスルニキハ時効ノ起算日ヨリ其完成ノ時ニ至ルマデノ期間ニ生ズル種々ノ錯綜セル法律關係ヲ一タ決定セサルヘカフサルコトナリ爲メニ時効ノ效用ヲ大ニ減少スルニ至ルヲ以テ本案ニ於テモ本條ヲ設ケテ此種ノ弊害ヲ避ケタリ唯既成法典ノ如ク取得時効ト消滅時効トフナサテ二規定スルノ必要ナレト信シタルヲ以テ本條ハ擬テ之ヲ一項ニ規定セリ

第四百十五條

(理由) 本條ハ證據編第九十六條第一項ノ規定ト其主意ヲ同レウシ唯嘲カ其文ニ修正ヲ加ヘタルノミ證據編ニ判事トアルヲ改メテ裁判所トセシメ裁判ヲ爲メハ裁判所ニシテ判事其人ニアラザルカ故ナ

第四百十六條

(理由) 本條ハ證據編第九十條ト其主意ヲ同レウシ唯其文ヲ簡ニシタルニ過キス但同條第二項ノ進行中ト雖モ既に經過シタル時期ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ト言ヘルハ即チ時効中斷ノ一方法ニシテ追認ヲ許セルモノニシテ同第三項ノ暗ニ認メル所ナレトモ本案ニ於テハ時効中斷ノ方法タル承認コトハ之ヲ次條ニ規定スルヲ以テ茲ニハ之ヲ省ケリ

證據編第一百一條及ヒ第一百一條ハ言フヲ待タサルコトナルヲ以テ之ヲ削除シ第一百一條ノ第三編定スヘキコトト信スルニ據リ同レク之ヲ削除セリ

第四百十七條

(理由) 一證據編第一百四條第一項ニハ經過シタル時期ノ利益カ消滅スルニキハ時効ハ中斷ストアルモ是レ時効中斷ノ定義ノ如キモノニシテ殊更法文ニ之ヲ掲グルノ必要無シト信スルニ據リ之ヲ削除セリ又第五百五條ニハ自然ノ中斷ト法定ノ中斷トヲ區別セリト雖モ自然ノ中斷ハ取得時効ノミニ關スルモノナルカ故ニ之ヲ第二節取得時効ノ部ニ置リテ茲ニハ之ヲ規定セス且特ニ此ノ如キ名稱付スルノ必要モ無シト信シタルヲ以テ本案ニ於テハ單ニ中斷ト曰ヘリ

二同編第九十九條ハ一切ノ請求ヲ以テ時効中斷ノ方法トセシテ唯嘲判上ノ請求權廢上ノ召喚文ハ任意出席履行文提示文ハ催告ニ之ヲ限レリ右ノ催告ト言ヘルハ果シテ執達吏ニ依リテ爲スヘキモノ

三同編第一百十一條第三號ハ特ニ訴訟手續カ民事訴訟法ニ規定ハタル時間停止シテ無効ト爲リタルトキハ中斷ハ不成立ナリト白ヘトモ此場合ハ民事訴訟法第百八十八條第三項ノ規定ニ於テ訴訟ヲ取下ケタルモノト看做セルモノナルヲ以テ自ラ本條ノ中ニ包含スルモノトシテ今特ニ之ヲ掲ゲス

第百五十條

(理由) 前條ニ於テ裁判上ノ請求カ時效中斷ノ效ヲ生セサル場合ヲ規定セルト同一ノ精神ヨリシテ本條ニ於テハセ拂命令ニ關シテ同種ノ規定ヲ設ケタルナリ

第百五十一條

(理由) 本條ハ證據編第百十四條ニ些少ノ修正ヲ加ヘテ民事訴訟法ノ規定ニ適合セシメント欲シタルノミ

第百五十二條

(理由) 本條ハ既成法典ノ明文ニ無キ所ナリ茲ニ之ヲ加ヘタルノ理由ハ第百四十七條ノ理由中ニ述ヘタルカ如ク證據手續參加ヘ裁判上ノ請求ナリト言ヒ難キヲ以テナリ猶セ拂命令ニ關スル一條ヲ設ケシテ同理由ニ基ク

第百五十三條

(理由) 本條ハ證據編第百十一條ト略其意義ヲ同シリス唯證據編ニハ單ニ裁判上又ハ勸解上ノ請求ヲ

爲シタルニ非サレハト曰ヒシレバ本案ニ於テハ更ニ任意出被破產手續參加以下ノモノヲ加ヘテ一層

道理ヲモノト爲シタル差アリ

第百五十四條

(理由) 本條ハ證據編第百十七條第一項及第二項ヲ併合シテ修正ヲ加ヘタルモノナリ其第三項ハ別條ヲ設ケテ之ヲ規定スルヲ便ナリトス同條第一項及第二項ハ五五立法精神ヲ同シウレ從テ成ル

ヘク其規定ヲ均一ニ爲スヘキモノナルニ原文ニハ別異ノ法ヲ設ケタルカ爲ニ頗ル不體裁ノ觀アルヲ以テ今改メテ之ヲ一ニス其假處分ヲ加ヘタルハ第百四十七條第二號ノ結果ニ過キサルナリ又同條第二項ハ單ニ民事訴訟法第百四十六條ノ場合ノミヲ豫想シテ規定セルモ他ノ場合ニ於テモ若ク法律ノ規定ニ從ハサルハ亦時效中斷ノ效ヲ生セサルモノトナスヘキ故ニ宣シテ本案ノ如ク修正スヘキナリ又差押等ノ取消ノ原因ハ法律ノ規定ニ從ハサルト權利者ノ請求ニ因ルトゾ區別スヘキ必要ナク且之ヲ區別スルトキハ第百四十九條以下ノ規定ト權衡ヲ失スルヲ以テ本案ハ既成法典ヲ補正シテ權利者ノ請求ニ因リタル文字ヲ加ヘタリ

第百五十五條

(理由) 本條ハ證據編第百十七條第三項ニ假差押及ヒ假處分ヲ加ヘタルノミ之ヲ加ヘタルハ第百四十七條ノ規定ニ適合セシメレカ爲メナリ

第百五十六條

(理由) 一、本條ハ證據編第百二十二條第一項ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルニ過キス其第二項ヲ削除シタルハ不勸産ニ關シテ特別ノ能力又ハ權限ヲ必要トスルノ理ナシト信シタレハナリ
二、同編第百十八條及ヒ第百十九條ニハ裁判上ノ追認裁判外ノ追認口頭追認書面追認自發追認應問追認明示追認默示追認ノ區別ヲ爲スト雖モ此ノ如キ區別ハ法律ノ明文ニ掲グルコトヲ要セス又第百十七條ニハ默示追認ノ例ヲ舉ゲタリト雖モ其列舉セラル場合ハ何レモ皆明瞭ニシテ特別ノ明否ヲ要セザルモノナルガ故ニ右ノ二條ハ全然之ヲ削除セリ
三、同編第百二十二條ノ規定モ亦當然百ヲ待タサル所ナルヲ以テ之ヲ削除セリ蓋シテ特別ノ證據方法ヲ要スル場合ナレハ特ニ之ヲ規定スルノ必要アリト雖モ通常ノ證據方法ニテ可ナル場合ニ一々之ヲ明言スレハ到底其類ニ堪ヘサレハナリ

第百五十七條

(理由) 本條第一項ノ規定ハ證據編第百四條第二項ト其主意ヲ同レウス同編第百二十一條及ヒ第百六十三條ニ據レハ短期時効カ追認又ハ裁判上ノ請求ニ因リテ中斷セラレタルコトキハ長期時効ニ變スルモノトセルコト猶佛國民民法及ヒ白國民民法草案ノ如クシ和蘭西等ノ法律及ヒ獨逸民法草案ニ之ニ類スルノ規定アレトモ權利ハ單ニ權利者カ承認ヲ爲スコトニ因リテ其性質ノ變スヘキノ理ナク又裁判ハ唯以前ヨリ存セル權利ヲ認定スルニ過キサルコトハ今日ノ法制ニ於テ一般ニ認ム所ナルヲ以テ權利者ニシテ特ニ更改ヲナスノ意思ヲ表示セサルニ於テハ權利ハ決シテ其性質ノ變ハサルモノト視

ルヲ妥當ナリトス故ニ本條ハ伊國民民法(二四一)二項ノ印度出訴期限法(一九二〇)第二條ハ短期時効ハ之ヲ中斷スルモ爲メニ長期時効ニ變スルコトナキモトセリ

二、本條第一項ハ證據編第百十二條ト其主意ヲ同レウス唯其記載ノ方法ハ彼ハ時効ノ停止セザル期間ヲ示シ此ハ更ニ其進行ヲ始ムヘキ時期ヲ示シタルノ差アルノミ

三、同編第百二十四條ハ單ニ或ル事項ヲ債權擔保權ノ規定ニ讓ルトノ旨ノ規定シタルニ過キス第三編ニ至リテ實際ニ其事項ヲ規定スレハ此旨自ラ明瞭トナルヘキヲ以テ同條ハ之ヲ削除セリ

第百五十八條

(理由) 一、本條ハ佛蘭伊等ノ如ク未成年者又ハ禁治產者ノ對シテハ時効ハ進行セスト絕對ノ一定タルヲ主義ヲ採ラサルハ勿論印度出訴期限法ノ如ク無能力ノ止ミタル後又ハ無能力者ノ死ビタル後三年ヲ經過スルニ非サレハ時効ハ完成セストスルノ主義又ハ既成法典ノ如ク無能力者ニ對シテハ長期時効ハ常ニ最後ノ一年間停止ストノ主義ヲ採ラサルナリ蓋シテ無能力者ニ對シテ時効ノ停止アルモノトスルハ無能力者ヲ保護スルノ精神ニ出デタルヲ相違ナキモ既ニ法定代理人ヲ設ケ無能力者ニ代リテ權利ヲ行使スル者アルコトヲ得セシメ且其代理人ノ責任ヲ重クシ猶ホ之ヲ確實ナラシムル爲メ相當ノ擔保ヲ供セシムルノ規定等ヲ設ケル以上ハ無能力者ノ保護ニ蓋シ至レルヲ謂フヘシ然ルニ尙時効ニ關シテ之ニ過當ノ利益ヲ與フルニ於テハ無能力者ヲ保護スルニ過キテ他人ヲ省ミサルコトトナリ他人ハ其相手方ノ無能力者タルガ爲ニ時効ノ十數年乃至數十年延長セザレ其間ハ決シ

テ自己ノ權利ノ確定ヲ見ルコト能ハサルノ不幸ニ陷ラレ果シテ此ノ如クナルトキハ時勢ノ進歩ニ伴ヒ社會上各般ノ取引金額繁トナルニ從ヒ其不便ヲ感スルモノ頗ル多キヲ加ヘシ是レ本案ニ於テ前述ノ如キ諸主義ヲ採ツル所以ナリ既成法典ノ佛蘭伊等ノ例ニ倣ハサリシモ想フニ亦此理由ニ基クナルヘシ然ルニ既成法典ハ法定代理人ノ存スル場合ニ於テモ仍ハ總テ無能力者ノ能力者ト爲リタルヨリ後一年間時効完成セストモカ故ニ法定代理人アルニ未成年者一就デハ勸モスルハ二十年時効ノ延長ナルコトナリ禁治產者一就デハ幾十年ニシテ時効ノ完成スルヤ計ラレサルコトアリ此ノ如キ規定ハ果シテ今日ノ時勢ニ充テ適合シタルモノト言フヲ得キカ然リト雖モ又西國民法白國民法草案等ノ如ク他ノ極端ニ走りテ無能力者ニ關スル特例ヲ全ク設ケサルトキハ或ハ無能力者ニ法定代理人ノ無キ間ニ時効ノ完成スルカ如キ場合ヲ生スルニ至リ無能力者ヲ保護スル立法制ノ主意ニ反ス故ニ本案ハ獨逸諸國ノ例ニ倣ヒ無能力者ヲ法定代理人ノ缺ケル場合ニ限りテ特ニ猶豫ヲ與フルコトトセリ而レテ猶豫ノ期間ノ如キハ德國ハ之ヲ二年トシ法國ハ之ヲ一年トスルモ本案ニ於テハ獨逸民法草案ノ例ニ仍リテ六个月トセリ是レ能力者ト爲リタル者又ハ法定代理人ノ書據ヲ照檢シ權利ノ有無ヲ調査レテ之ヲ行使スルハ此期間ヲ以テ十分ナリト信シタレハナリ

二 本案ニ於テハ未成年者及ヒ禁治產者ニ關レテ特ニ長期時効ト短期時効ヲ區別スルノ必要ナキハ故ニ之ヲ廢セリ(證一二)

三 證據編第二百三十一條第一項但書ヲ削除シタルハ是レ後見人ニ關スル一般ノ規定ノ結果ニ過キザ

レハナリ

四 同編第二百三十二條ヲ削除シタルハ是レ既ニ本案ノ無効及ヒ取消ノ節ニ於テ規定シタル所ニシテ今之カ點題ヲ喚起スルノ必要ナクレハナリ

第百五十九條

(理由) 一 本條ハ證據編第二百三十四條及ヒ第二百三十五條ノ併合シテ之修正ヲ加ヘタルモノナリ無能力者ヨリ父母若クハ後見人ニ對シ又ハ妻ヨリ夫ニ對シテ權利ヲ主張スルハ或ハ事實ニ不能ナルコトモアレハ或ハ當事者間ノ關係上之ヲ爲シ得サルコトモアル是レ本條ヲ設ケテ無能力者及ヒ妻ヲ保護スル所以ニシテ佛國及ヒ和蘭等ニ於テモ亦此種ノ規定アリ然レトモ其例ヲ反對ニシテ後見人ヨリ無能力者ニ對シ若クハ夫ヨリ妻ニ對スル場合ニ於テハ後見人若クハ夫爲ニ殊更ニ本條ノ如キ保護ヲ與フルコトヲ要セス蓋シ彼等ハ總テ無能力者ノ負擔セル義務ヲ履行スル權限及ヒ責任ヲ有シ又ハ無能力者ヲシテ義務ヲ履行セシムコトヲ得ルモノナレハナリ

二 原案兩條ヲ未定ヲ削除シタルハ本案ニ於テハ所謂即時時効ヲ認メサレハナリ(章首理由第二項)況ンヤ其規定ハ實質ニ於テモ亦大ニ妥當ヲ疑フヘキモノアルニ於テナリ

三 同編第二百三十一條ハ不必要ノコトナルヲ以テ全然之ヲ削除セリ殊ニ其本文ノ如キハ既成法典ニ於テモ尙適用ヲ見サルモノナリ

第百六十條

〔理由〕一、本條ノ規定ハ既成法典ニナキ所ナレトモ之ヲ設クルノ必要ナルハ疑フ容レズ相續人ノ確定セサル財産ニ管理人ナキトキハ一方ニアリテハ此財産ノ爲メニ權利ヲ行フヲ又一方ニアリテハ此財産ニ對シテ何人モ權利ヲ行フコトヲ得ズ從テ權利者ニ過失ナキニ使等ニ對シテ時効ノ完成スヘキ條アルヲ以テ本案ハ獨逸民法草案審議民法デヲ一民法及ヒ印度出訴期限法等ニ倣ヒ殊ニ本條ヲ設ケタルナリ

二、證據編第二百二十八條ニ於テ原告起訴者ノ想像セラルカ如キ場合ハ本邦ニ起テサルヘレ假令起テコトアリトスルモ是レ果竟有期若クハ條件附ノ權利ニシテ本案第六百六十六條ヲ適用ニ過ササルカ故ニ同條ハ之ヲ削除セリ

三、同編第二百二十七條ノ如ク規定シテ相續人ヲ保護スヘケンハ他ノ場合ニ於テモ亦類似ノ規定ヲ設ケテ之ヲ保護スヘキモノ頗ル多カラシ本條ハ總テ斯ノ如キ保護ヲ必要ト認メサルカ故ニ同條ヲ削除セリ

第六十一條

〔理由〕一、本案ハ證據編第三百三十六條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ同條ニハ時効ノ進行ヲ停止スル場合ノ列舉シテ交通ノ閉塞裁判事務ノ停止ト又陸海軍人ニアリテハ戰亂ノ時モ然リトスレトモ本案

ニ於テハ概括的ニ之ヲ規定シ況テ天災其他難クヘカラサル事變トセリ且同條ニ「權利ノ效用ヲ致サシメ」又ハ時効ヲ中斷スル爲メ云々ト言ヘ權利ノ行使ハ必ラス時効ヲ中斷スルヲ以テ本條ニハ單

時効ヲ中斷スルコト能ハサルトキハト爲レタリ又同條ノ停止ノ原因ノ止ミタル後直チニ請求ノ爲メヘキコトヲ命スレトモ是レ少シク嚴ニ失スルノ權アルヲ以テ本案ニ於テハ二週間ノ猶豫ヲ與フルコトトセリ

二、同編第二百二十九條及ヒ第三百十條ノ規定ト信スルヲ以テ之ヲ削除セリ

三、同編第二百二十七條ハ第三編ノ規定ニ據リテ明白カナキヲ以テ之ヲ削除セリ

第二節 取得時効

〔理由〕本節ニ於テハ動産ノ取得時効ト不動産ノ取得時効トヲ合セテ之ヲ規定シタリ蓋シ所謂即時時効ナルモノヲ除ク外ハ動産ノ取得時効モ不動産ノ取得時効モ共ニ同ノ規定ニ據ルヘキコトハ證據編第四百十八條及ヒ第四百十九條第三項ノ規定ニ依リテ明白カナル所ニレテ殊ニ本案ニ於テハ所謂即時時効ナルモノヲ認メサルヲ以テ本節ノ規定ニ於テ動産トノ間ニ區別ヲ設クルノ必要モ存在セザレハナリ

第六十二條

〔理由〕本條ハ證據編第三百三十八條第四百十條及ヒ第四百十八條ヲ併合シテ之ニ修正ヲ施コレタルモノナリ左ニ其修正ノ要點ヲ列叙セン

一、原文ニハ最長時効ノ期間ヲ二十年トリ是レ外國ニ於テモ其例尤モ多キトコロニレテ又種ニハ場合ニ因リテ四十年ノ期間ヲ採ルモノモアリ(澳)四七二ダラウブ(デン)二〇四ト離モ世述ノ

體物ニ關スル最大ノ物權ノ一ヲ示スヲ以テ唯前條ノ規定ノミニテハ所有權以外ノ財產權ニ關レテ何等ノ規定モナキコトナリ實際ノ適用上頗ル不便ヲ感スヘキヲ以テ特ニ本條ヲ設ケテ豫メ之ニ備フルモノナリ

第百六十四條

(理由) 本條ハ證據編第百六條第百八條及ヒ第百二十九條ヲ併シテ一條ト爲シタルナリ而シテ既成法典ト異ナリテ單ニ占有ノ中斷ノミヲ言ヒ不繼續ヲ言ハサルハ此二者ハ全ク相同シキモノナルコト既ニ第百六十二條ノ理由(二)ニ於テ説明セシカ如クナレハナリ占有ノ中斷ハ或ハ任意ニ因リ或ハ他人ノ所爲ニ因ル任意ニ因ル場合ニアリテハ直チニ時效中斷ノ效力ヲ生ズレドモ他人ノ所爲ニ因ル場合ニアリテハ占有權ノ效力ニ關スル規定ニ基キ一年內ニ之ヲ取返シカ又ハ同期間內ニ其取返ヲ訴ヘ終ニ之ヲ取返シタルトキハ時效ハ中斷セサルモノナリ而シテ既成法典ニハ只一年內ニ之ヲ取返シタル場合ノミ時效ハ中斷セストセルニ本條ニ於テ白國民法草案ニ倣ヒ此場合ノ外更ニ一年內ニ其取返ヲ訴ヘ終ニ之ヲ取返シタル場合ニモ亦時效ヲ中斷セサルコトトタルハ過失ノキ占有者ノ保護スル精神ヨリ當然生ズヘキ所ナレハナリ

二 證據編第百六條第二項ヲ削除シタルハ占有ヲ取戻セハ時效ノ更ニ進行スルハ本條第百五十七條ノ規定ニ因リテ明カナレハナリ

三 同條第三項ヲ削除シタルハ既ニ任意ニ占有ヲ中止シ又ハ他人ノ爲メニ之ヲ奪ハレタルトキハ時

效ハ中斷ストノコトヲ明言シ不可抗力ニ因リテ占有ヲ奪ハレタル場合ニ關シテ何等ノ規定ヲモ爲ササルトキハ此場合ニ於テハ時效ノ中斷セサルハ言フヲ待タサルヲ以テナリ

四 同編第百七條ヲ削除シタルモ前段ノ理由ニ等シ既ニ本條第百四十八條ニ於テ所謂法定ノ中斷ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ於テハ其效力ヲ有スト明言シ所謂自然ノ中斷ニ關レテハ何等ノ規定ヲモ設ケサルトキハ此中斷ノ效力總テノ利害關係人ニ及フハ言フヲ待タサルナリ

五 同編第百三十九條ニハ或ハ長キ時間占有ヲ止メレトキハ其占有ハ不繼續タル旨ノ規定セリト雖モ或ハ長キ時間トイフカ知シハ頗ル漫然トレ幾日幾月ヲ指シモノナルヲ判明シ難キ實際ノ適用上屢不便ヲ感スルコトナレトセス且又占有者ニレテ一旦任意ニ其占有ヲ止メタルトキハ占有ノ要件タル意志ヲ缺クモノニシテ從テ直チニ時效ノ中斷アルモノトナルヲ妥當ナリト信シタルヲ以テ右數語字ハ全ク之ヲ削除セリ

六 同編第百三十九條第二項ハ占有中斷ノ當然ノ結果ナルカ故ニ之ヲ削除セリ既成法典ニ於テハ不繼續ト中斷ト別異ノモノトセシカ故ニ或ハ此種ノ規定ヲ要セシナラシメルトモ本條ニ於テハ全ク之ヲ同一視シタルヲ以テ決レテ此ノ如キ規定ヲ要セサルナリ

七 同編第百三十一條及ヒ第百四十三條ヲ削除シタルハ第百三十一條第一項ノ規定ハ言フヲ待タサル所ニレテ其第二項及ヒ第百四十三條ノ規定ハ占有權ノ章ニ於テ規定スヘキモノナレハナリ

第百六十五條

(理由) 是レ第百六十三條ヲ設ケタル當然ノ結果ナリ

第三節 消滅時效

(理由) 一、既成法典ニハ免責時效アリテ消滅時效ナシ免責時效ハ其文字ノ示ス所ニ據ルモ又條文ノ實際ニ規定セル所ニ據ルモ單ニ義務ノ消滅ノミニ關シテ債權以外ノ權利ノ消滅及ハス然リト雖モ義務ノ時效ニ因リテ消滅スル如ク債權以外ノ權利モ亦時效ニ因リテ消滅スルヲ以テ消滅時效ノ總則ナキトキハ決レテ完整ノ規定ナリト言フコトヲ得ス或ハ辨レテ所有權ノ消滅時效ニ據ルハ他方ニ於テ取得時效ニ據ルノ結果ナルヲ以テ所有權ニ付テハ取得時效ノ規定アレハツレニ足レリ又所有權以外ノ物權ニ關シテハ大抵特別ノ規定ヲ設ケタルヲ以テ殊更甚ニ消滅時效ノ總則ヲ設ケタルコトヲ要セスト言フモノアレトモ所有權ハ取得時效ニ據ルノ外時效ニ據ルコトナキハ既成法典ハ明文ナクテアリ又所有權以外ノ物權ニ關シテハ大抵特別ノ規定ヲ設ケタルヲ決シテ悉ク然ルニテアサルカ故ニ特別ノ規定ナキ物權ニ適用スヘキ條文ナキトキハ往々不都合ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ本案ニ於テハ消滅時效ノ總則ヲ設ケテ此缺點ヲ補正セリ

二、既成法典ハ特別時效ト稱スルモノヲ設ケ普通時效トセサルモノヲ悉ク其中ニ包含セシメントスルノ主意ナルカ如キモ其實際ノ規定ヲ見ルニ決レテ諸種ノ特別時效ヲ網羅シ盡セルハ非スレバ多クハ短期ノ消滅時效ヲ規定セル止マリ之ニ聊ク身分ニ關スル訴權(證一五四)及ヒ遺產請求ノ訴權(同二五五)ニ付テノ規定ヲ加ヘタルノミ然リト雖モ身分權ノ特別ノ規定アル場合ノ外ハ決レテ時效

ニ據ラサルモノナルヲ以テ本案ハ殊ニ注意シテ財產權ナル文字ヲ使用シ(六三二六七)且又遺產請求ノ訴權ハ普通ノ時效期限ヲ經過スレハ消滅スルモノトシタルヲ以テ本案ニ於テ殊更ニ特別時效ト稱スルモノヲ設ケタルノ必要ナレト信シ消滅時效ノ下ニ總テ各種ノ時效ヲ包含セシムルコトセリ

第百六十六條

(理由) 本條ハ證據編第百二十五條及第百二十八條ヲ併セテ一條ト爲シタルナリ唯左ノ三點ニ於テ

原文ト異ナレリ

一、原文ハ本條ノ規定ヲ諸種ノ時效ニ適用スヘキモノノ如ク記載スレドモ取得時效ハ占有ノ始ヨリ其期間ヲ算スルノ一途アルノミニ決レテ本條ノ適用ノ學クニ從テ本條ハ唯消滅時效ニ特別ナル規定トナルヲ以テ本案ニ於テハ之ヲ消滅時效ノ節ニ掲グルコトトシタルナリ

二、既成法典ハ本條ノ如キ規定ヲ時效ノ停止ト題スル章ニ掲載シ學說中ニモ此種ノ規定ヲ以テ時效ノ停止ニ關スルモノトセルモノ頗多ト雖モ原來消滅時效ノ權利ヲ行使シ得ル者ノ長ク之ヲ行使セサルニ因リテ其權利ヲ消滅シシムルモノナルヲ以テ未ダ發生セサルカ又ハ未ダ行使スルコトヲ得サル權利ニ對シテハ時效ノ進行アリ得ヘキ筈ナシ而シテ未ダ其進行ヲ始メサルニ之ヲ停止アリト云フハ決シテ妥當ノコトニアラサルカ故ニ本案ハ之ヲ改正シテ消滅時效ノ起點ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ルノ時ニアリトセリ

三原文ハ本條ノ如キ場合ニ例外ヲ設ケニ第二者ノ爲メニ取得時効ノ直チニ進行スルコトヲ妨ケストレニ抵當ノ消滅時効ノ直ニ進行スルコトヲ妨ケストリ然リト雖モ抵當ハ債權ノ擔保ニシテ通常其債權ト共ニ一定ノ期限又ハ條件ヲ有レ詳細ニ之ヲ登記スヘキモノナルヲ以テ之ニ關スル時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテハ期限又ハ條件ノ到来セル時ヨリ其進行ヲ始ムヘキコトナルヲ妥當ナリト信メ本條ノ第二項ニハ抵當ノ消滅時効ニ關シ原文ノ如キ規定ヲ掲ケス然レトモ第三者カ取得時効ヲ援用スル場合ニ於テハ抵當ノ消滅時効モ之ト共起算點ノ同フスヘキハ勿論ノコトナリトス

第百六十七條

(理由) 一證據編第百五十條及ヒ第百五十五條ノ義務ノ免責及ヒ遺產請求ノ訴權ニ關シテ二十年ノ時効ヲ定メタリ是レ外國ニ於テモ其例多キトコナレトモ本條ハ第百六十二條ニ於テ説明シタル理由ニ因リテ之ヲ二十年ニ短縮セシ又同時ニ原文ヲ修正シテ汎ク所有權以外ノ財產權ノ一律ノ下ニ規定セリ是レ第百六十三條ニ述ヘタル精神ニ因ルナリ

二同編第百五十一條ノ規定ハ當然コトヲ待タルヲ以テ之ヲ創除セリ

三同編第百五十三條ニハ質ノ返還ヲ得ル爲メノ對人際權ハ債務ノ消滅シタル後ニ非サレハ時効ニ罹ラスト曰ヘトモ原本賣物返還ノ請求權ハ債務消滅ノ時ニ始メテ生スルモノナルヲ以テ原文ノ如キ規定ハ本條前條ノ規定ノ當然ノ結果ニシテ殊更之ヲ明言セザルヲ要セザルハ故ニ之ヲ創除セリ

第百六十八條

(理由) 本條ハ證據編第百五十二條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ原文ニハ二十八年ノ後ニ至リ追認證書ヲ要求スルコトヲ得ト規定セルモ追認證書ヲ與フルカ如キコトハ債務者ニ取リテ大煩勞ノコトトイフニアラス又債權者ヨリ毎年之ヲ請求セシテ債務者ニ非常ノ累ヲ加フルルカ如キコトナルヘキヲ以テ本條ニハ二十八年ノ後ト云ヘルカ如キ制限ヲ設ケスレドモ之ヲ要求シ得ルモノトシタリ又原文ニハ裁判上又ハ裁判外ノ費用ノ負擔ニ關シテ稍詳細ノ規定ヲ設ケタレトモ追認證書作成ノ費用ハ通常些少ナルヲ以テ總テ之ヲ債務者ノ負擔ニ歸スルモ決シテ酷ナリト言フヲ得ス是レ本條ノ創正ノ要點ナリ

第百六十九條

(理由) 證據編第百五十一條ハ其第一項ニ諸種ノ債權ヲ例示シ第二項ニ之ヲ原則ヲ掲ケタレトモ此ノ如キ例示ハ到底十分ナラス且又之ヲ掲グルニ於テハ其列舉セラレタルモノト特別法ノ規定トノ間ニ往々抵觸ヲ生スルコトアリ例ヘハ恩給ハ民法ニハ五年ノ時効トセルモ恩給法ニ於テノ之ヲ三年トセルカ如シ故ニ本條ハ唯原則ノヨリ掲ケ特別法ノ規定ナキモノハ總テ之ニ據ラシムルコトトシ一方ニ於テハ本法ト特別法トノ抵觸ヲ防ギ又一方ニ於テハ此種ノ債權ヲシテ決シテ法律ノ規定ニ漏ルルコトナカラシメタリ

第百七十條

(理由) 本條ハ證據編第百五十七條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ其要點左ノ如シ

一 原文第三號ハ之ヲ削除セリ何ナレハ謝金又ハ給料ニ關スル債權ノ時效ヲ五年二年及ヒ六ヶ月ノ三段ニ區別スルハ種類ニ過タルノ嫌アリ殊ニ原文第二號ニ示ス如キ期間即チ月ヨリハ長ク年ヨリハ短キ時期ニ據リテ人ヲ備フカ如キコトハ我邦ノ慣習ニ於テ多ク見ラルコトナルヲ以テナリ

二 原文第三號及ヒ第四號ノ債權ノ種類ハ頗ル類似セルヲ以テ本案ニ於テハ合シテ二號ニ中ニ之ヲ包含セシメタリ

三 本條第二號ニ但書ヲ加ヘタルハ此種債權ハ工事終了ノ後ニ始メテ行使スルノ慣習多カルヘレト信シタルハナリ(伊二四〇六項)

第七十一條

(理由) 本條ハ證據編第六十二條ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルノミ

第七十二條

(理由) 本條ハ證據編第一百五十八條ニ文字ヲ修正ヲ加ヘタルノミ

第七十三條

(理由) 本條ハ證據編第一百五十九條ニ左ノ修正ヲ施シタルモノナリ

一 原文ニ一年トアルヲ改メテ二年トシタルハ從來ノ慣習上本條ニ掲グルカ如キ債權ハ一年以上ノヲ請求セサルコト多クアルニ若シ此債權ニシテ二年ヲ以テ時效ニ留ムルトスルトキハ爲ニ當事者間ノ信用ヲ減縮シテ訴訟ノ數ヲ増加スル虞アルヲ以テナリ

二 第一號ニ生産者ヲ加ヘタルハ生産者ヨリ消費者ニ賣リタル場合ト商人ヨリ之ニ賣リタル場合トニ於テ其債權ノ時效ヲ異ニスヘキ理由ヲケレハナリ(獨一五二一六二二號)

三 原文ニ於テハ職工等カ注文者ノ材料又ハ動産物ニ付キテ爲シタル仕事ノ自己ノ材料又ハ動産物ニ付キテ爲シタル仕事ニ據テ其債權ノ時效ヲ異ニスルノ主義ヲ採トモ此ニ至リ間ニ區別ヲ爲スノ理由ナク殊ニ自己ノ材料ニ付キテ爲シタルトキハ二十年ノ既成法典ノ三十年ノ長期時效ニ留ムヘキモノトセルカ如キハ頗ル不當ナルヲ以テ本案ニ於テハ全ク此間ノ區別ヲ廢止通シテ之ヲ一年トシタリ

四 第三號ニ教師ヲ加ヘタルハ我邦ノ慣習上教師ハ他ノ雇人等ト同一視スルヨリハ寧ろ校主親主等ト同一ノ取扱ヲ爲スヘキモノナレハナリ(証一五六六號一五七二號一六〇一號)

第七十四條

(理由) 本條ハ證據編第六十條ニ左ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

一 六ヶ月ヲ改メテ一年トシタルハ前條ニ於テ既成法典ニ一年トアルヲ改メテ二年トシタルト其精神ヲ同クス

二 第一號ニ於テ教師ヲ削リタル理由ハ前條ニ於テ既ニ之ヲ説明セリ

三 運送賃及ヒ動産ノ損料ハ原文ニナキトコナレトモ此カ如キ債權ハ通常長ク請求セシテ放擲シ置クモノニアラス且往々其證據ヲ失ヒ易キモノナルヲ以テ之ニ短期ノ時效ヲ適用スルヲ可ナリト信シテ之ヲ加ヘタリ

四貨品及レ屋遊場ノ債權キ原文ニナキトコロナレドモ此等ノ債權、旅店料理店等ノ債權トハ同種ノモノニテ決シテ其時効ニ一年ト(舊債編ニハ六月、二十年(新債編ニハ二十年(商法ニハ一年ノ大差ヲ設ケヘキモノニアラサルカ故ニ之ヲ加ヘ其時効ヲ通シテ一年トシタルナリ

第二編 物權

(理由) 本編ハ既成法典財產編第一節ニ掲グル主タル物權及ヒ債權擔保編ニ掲グル從タル物權ニ關スル規定ヲ併合スルモノニテ特ニ既成法典ヲ修正シタル點ハ用益權、使用權、住居權及ヒ賃借權ヲ刪除シタルニ在リ又物權ニ關スル特別ノ取得方法ニレテ既成法典財產取得編ニ規定スル所ノ條項ハ必要ニ應レ之ヲ抽出シテ本編ニ編入セリ

本編ノ物權トハ財產權ニレテ物ノ上ニ行ハレ總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ル權利ヲ云フ故ニ生命身體榮譽自由等ニ關スル權利ノ如キ之ヲ包含セズ蓋此等ノ權利ハ不法ノ行爲不正ノ損害等ニ關スル規定ニ依リテ間接ニ保護ヲ受クヘレト雖モ之ヲ一種ノ物權トシテ直接ニ保護スルコトハ本案ノ採ラル所ナリ故ニ本案ニ謂フ所ノ物權ハ狭義ノ意味ニ於テ財產ニ關スル權利ニ限ルモノトス

第一章 總則

(理由) 本章ニハ物權全體ニ通スル概則ヲ掲グ故ニ物權ノ創設得喪ニ關スル規定ニレテ一切ノ物權ニ適用スヘキモノハ總テ茲ニ彙聚シテ之ヲ記載セリ既成法典ハ合意ノ結果トシテ物權ノ得喪移轉ニ關スル規定ヲ財產編第二百九十六條第三百三十一條第三百四十八條等ニ掲ケタリト雖モ此等ノ規定ハ固シ物權ノ通則ニ屬スヘキモノナレハ本案ニ於テハ之ヲ物權ノ總則中ニ掲グルコトトセリ

第一百七十五條

物權ハ本法其他ノ法律ニ定ムルモノ外之ヲ創設スルコトヲ得ス
(理由) 抑モ物權ハ總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ強力ノ權利ナルヲ以テ若シ各自カ隨意ニ之ヲ創